

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 六上』年間指導計画・評価計画

船二小 2023年2月

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

- 〔第5学年及び第6学年〕目標（「学びに向かう力、人間性等」の単元目標）
- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	—	六年生で学ぶこと							
4	5 (話す聞く2)	言葉で伝え合おう	◇□互いの発言を聞いて受け止め合う関係をつくり、わかりやすく話したり、声に出して読んだりすることを楽しみ、国語学習への意欲をも	—					
4	2 (話す聞く2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1・2	○クラスの人々に聞いてみたい質問を出し合い、考えを交流するという学習の見通しをもつ。 1. みんなへの質問をカードに書く。 ・教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 2. カードを引いて、質問を決める。 3. 質問にどう答えるか、考える。 ・自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。 4. グループで発表する。 5. 感想を伝え合う。	○質問は「初めて○○ができたときのこと」のような過去の思い出を尋ねるものと、「将来やりたいこと」「行ってみたい場所」のような未来のイメージを尋ねるものと、「なってみたいお話のキャラクター」のようなもし可能であつたらというファンタジーな内容などから考えるようにする。聞かれたら答えてみたいと思えるような質問がふさわしいことを確認する。 ○答えを考える手がかりとして「なぜ?」「例えば?」「詳しく言うത്?」「つまりどういうこと?」等の言葉を提示して、自問自答するようにする。 ○質問の答えを述べる際には、具体的なエピソードを盛り込めるようにする。「なぜかという」という接続詞を用いて、具体的なエピソードにつなげるようにする。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 （〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。		カード／質問／お話／発表
4	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	3	1.『風景 純銀もざいく』を音読する。 (1) 1連・2連・3連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 (2) 音読して気づいたことや気になったことをあげ、交流する。	○連ごとに繰り返し音読することで、どのような風景が浮かんでくるか、言葉で表せるようにする。「どのような色が見えてきたかな」「このなのはない煙はどれくらい広いのかな」「どのような音が聞こえてきたかな」「どのような匂いがしてきたかな」 ○遠方から聞こえる「かすかなむぎぶえ」、上空から聞こえる「ひばりのおしゃべり」、そのさらに上に見える「やめるひるのつき」という各連の8行めについて、どのような違いがあるのか気づけるようにする。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。（〔知識及び技能〕(1)ケ） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。		音読／詩

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	2	あの坂をのぼれば	<p>□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →◎知技(1)カ</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。 →知技(1)ケ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ</p>	<p>4</p> <p>5</p>	<p>○学習の見通しをもつ</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 全文を音読し、言葉の意味を考えたり、確認したりする。</p> <p>考えよう・深めよう</p> <p>2. 登場人物の心情がわかるところを見つけ、心の動きを想像しながら声に出して読む。</p> <p>(1) 登場人物の心情がわかるところを見つける。</p> <p>(2) 登場人物の心の動きを想像しながら声に出して読む。</p> <p>広げよう</p> <p>3. すてきだと思う情景について、感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○前後の文から予想したり、辞書を使って調べたりする方法で言葉の意味を考えたり、確認したりするようにする。一つ一つの言葉を正しく理解することは、物語の全体像を具体的に想像することにつながる。</p> <p>○「一あの坂をのぼれば、海が見える。」が繰り返されていることを確認し、登場人物のどのような心の動きが想像できるか、話の展開から考えられるようにする。</p> <p>○登場人物と似た経験がある子どもがいた場合には、そのときの経験を話させて、具体的に想像できるようにしてもよい。</p> <p>○4上で情景描写について取り扱っている。情景描写とは、景色や場面の様子が詳しく書かれている表現や、登場人物の気持ちを重ねて書かれている表現であることを再度確認する。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ）</p> <p>【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>		文／言葉／漢字／物語／登場人物／情景／作者
4	3 (書く3)	図に表して考えよう	<p>■目的や意図に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけたり比較したりすることができる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>○教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 実際に考える図を使ってみる。（随筆や意見文を書く際に使う。）</p> <p>2. 意見をまとめるノート作りを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○同じ図でも、発想を広げる方法、分類したり比べたりする方法と2種類あることに気づかせる。</p> <p>○p.18上の図では、日常生活の中で感じたり考えたりしてきた疑問や課題を書き出して関係づけたりしながら、課題や課題意識を明確にしていることを確かめたい。</p> <p>○p.18下の図では、あるテーマについて長所と短所の2つの観点で分類整理していることを確かめたい。</p> <p>○実際に使って、効果を実感させる。</p> <p>○ノートの工夫は年間を通じて確認していきたい。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。</p>		課題／図／文章／意見／資料／情報／インターネット／比べる／共通点／相違点／見出し／理由／賛成／反対

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4～5	11 (書く6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。						
4	3 (書く1)	春はあけぼの	<p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 →◎知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 →知技(3)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 →思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみをもち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	1	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. p. 22 を読み、教材の概略をつかむ。</p> <p>2. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。</p> <p>3. 各「季節」の情景をイメージする。</p>	<p>○随筆を、自分の経験や考えと比べながら読み、自分が経験したことなどを書くという単元の見通しをもたせる。</p> <p>○文語の散文との初めての出会いである。まずは、教材の概略をつかませる。</p> <p>○句読点など、くぎり方に気をつけてゆっくりと読ませる。慣れてきたら、リズムをつけて音読させる。</p> <p>○大意や写真を参考に、情景をイメージする。四季について、自分たちの経験や感じていることを想起させると、よりイメージがふくらんでくだろう。</p>	<p>◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）</p>		暗唱／文章／詩／様子／言葉
			<p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 →思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみをもち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	2・3	<p>4. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。</p> <p>5. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。</p>	<p>○気に入った「季節」の文章を選び、なめらかに読めるように何度も繰り返し読むようにさせる。暗唱に取り組ませてもよい。</p> <p>○自分の経験をもとにして、季節感を強く感じた場面を、簡潔な表現で文章化させる。</p>	<p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書くようとしている。</p>		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3	薫風 「迷う」	<p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようと考える。</p>	4	<p>○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>確かめよう</p> <p>1. 二つの随筆を読んで、筆者が取り上げているものや、どのような思い出、事例をあげているのか確かめる。</p> <p>(1)「薫風」のもともとの意味を確かめ、それに対して筆者（黛さん）はどのようなものを「薫風」の例にあげているのか考える。</p> <p>(2)それぞれの「薫風」に対する筆者（黛さん）の思い出を、ノートにまとめる。</p> <p>(3)「迷う」「迷わない」の事例や、事例に対する筆者（日高さん）の考えを表にまとめ、それぞれの事例や筆者の考えについて話し合う。</p>	<p>○前単元「春はあけぼの」で随筆について知り、実際に書くという見通しをもっている。見通しを再度確認する。</p> <p>○筆者（黛さん）が断っているように、本来の意味での「薫風」と、ここで筆者が取り上げようとしている「薫風」には違いがある。ここに、辞典と随筆との違いがあるともいえる。だからこそ、そこに筆者の思いや考えが表れる。</p> <p>○筆者はここで「二つの思い出」を語っている。これらの思い出が、本来の意味での「薫風」とどのような関わっているか、その関わりを考えることで、「また」に続く二つめの条件「筆者の『薫風』への思い」を読むことができる。キーワードは、「五月」「風」「かおり」である。</p>	<p>◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。</p>	随筆を読む	文／漢字／根拠／結果／随筆／事例／話し合う／筆者／メモする／視点／訳／様子／作者
				5	<p>考えよう</p> <p>2. 二つの随筆を比べ、話し合う。</p> <p>(1) 二つの随筆を比べ、①取り上げている具体例は何か（何を通して）。②個性的な表現はどうか。③筆者独自のものの見方・考え方は何か。について話し合う。</p> <p>(2)「薫風」に、黛さん独自の意味を加えたことで、どのような効果があったのか話し合う。</p> <p>(3)「迷う」ことに対して、日高さんがどのように考えているかについて話し合う。</p>	<p>○教科書下段は、筆者（日高さん）が取り上げている事例についての感想や、自分の経験と照らし合わせて考えている様子を例にしている。</p>			
				6	<p>深めよう</p> <p>3. それぞれの随筆に対する感想をノートにメモして、紹介しあう。</p> <p>○学習をふり返る。</p>	<p>○「ここが大事」に、「随筆とは、筆者がある物事やできごとなどをとおして、自分のものの見方、感じ方、考え方を書いた文章」とある。どのように「通し」たのか、なぜ「通し」たのかなどがポイントである。黛さんは、自分の経験・体験（事実）を「通して」書いており、日高さんは、集めた事例を「通して」書いている。「なぜ」「どのように」に、書き手の個性も表れる。</p> <p>○「ここが大事」に書かれている読むときの視点は、随筆を書く時にも生かすことができるので、学習のふり返りの際に押さえるとよい。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	5 (書く5)	随筆を書こう	<p>■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知・技能(1)カ △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。</p>	7・8	<p>○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう（重点） 1. 書く事柄を決める。 ・仮のテーマ「風」について、どのような経験があるか考える。</p> <p>組み立てよう（重点） 2. 体験や事例を書き出し、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○児童例文を読み、児童の書く随筆のイメージをもたせる。</p> <p>○「風」で思い浮かぶ内容が決まったら、黛さん、日高さんの書き方を参考に、組み立てを考える。個人的な経験と、一般的な事柄を重ねてみる。いくつかの事例と、それに対する自分の考えを述べる。</p> <p>○教科書の参考文例は、個人的な経験に基づいているが、ここで気をつけたいことは、単に思い出だけを述べるのではなく、「自分の感想や考えを加える」ことである。</p> <p>○書きたいできごと（エピソード）と自分の考えがうまくつながるかどうかを確認する。</p> <p>○構成や下書きをあまり丁寧にしすぎない。次活動の交流で、児童同士で気づくようにさせたい。</p> <p>○3～5人でグループを作り、できごとがわかりやすいかなどに注目して交流させる。その際、何について書こうとしたのか、そのために、どのような表現上の工夫をしたのかなどについて、発表する前に述べさせるようにする。書き手の意図と表現の関係を読み手がおさえたうえで、交流させることが大切である。</p> <p>○「よく書けているところ」「おもしろいところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。</p> <p>○これまでに学んできた説明文や文学教材、表現の仕方なども思い出させたい。特に、子どもたちがこれまで表現の仕方について着目して学んできていることを、適宜振り返らせたい。</p> <p>○お互いのものの見方や感じ方、考え方を知り、感想を交流する。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。</p>	随筆を書く	随筆／言葉／漢字／始め／話し合い／中／気持ち／事例／伝える／終わり
				9・10	<p>書こう・読み返そう 3・4. 読み返しながらかく。</p>				
				11	<p>伝え合おう 5. 友達と読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 2. p.46の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 3. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 4. 切れ目に「／」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 5. 略語と、略す前の熟語とを比べる。	○三字以上の熟語の構成を理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○五年生上巻『漢字の広場③ 熟語の構成』で学んだ二字熟語の構成法を再確認し、型に分けて、整理しておく。 ○それぞれの言葉の切れ目に「／」を入れて、構成を考えるようにする。 ○それぞれの言葉のつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。 ○熟語の文字が増えても、どれも二字熟語が基本単位となっていることをおさえる。 ○切れ目に「↓」「↑」「 」「＝」などを入れて、構成を考える。 ○それぞれのつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。 ○国語辞典や漢字辞典で、漢字や熟語を調べ、推測した意味と比較するとよい。 ○例示の「緑地化計画」をもとに、熟語が切れ目ごととに並んでいるというよりも、何段階かの階層をもって結びついていることをおさえる。 ○どの切れ目を明確に区切るか、音読するとよくわかる。それによって意味の上で中心となる語が浮かび上がってくる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。		構成／熟語／漢字／話し合う／言葉
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことを振り返る。	○p.48の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる美術館の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ○条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかがわかりやすくなる。 ○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ○三字以上の熟語の構成について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。		漢字／言葉／様子

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5～6	5 （書く2）	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。						
	5（書く2）	雪は新しいエネルギー	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 →◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 →◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p> <p>□説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 →思判表C(2)ア</p>	1	○環境に関わる言葉を巡って話し合い、学習の見直しをもつ。	○ニュースや天気予報などを思い出し、どんなことを聞いたことがあるか、知っていることは何か、説明し合い、話し合う。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	考えを深めるために	文／漢字／図／言葉／課題／事実／筆者／段落／事例／文章／説明／結果／理由／外来語／分析／長所／短所
				2～4	考えよう 2. （1）筆者があげている雪エネルギーの利用について、事例ごとにその利用の仕方や利点などをノートにまとめる。 （2）筆者が、雪をエネルギーとして利用することを主張しているのはなぜか、「化石燃料」「再生可能エネルギー」という言葉を使って説明する。 （3）雪エネルギーの利用によって、筆者は、雪国の暮らしにどのような変化の可能性を考えているか、また、どのような課題があると言っているか、説明する。	○本文に提示されている順に書き抜くのではなく、氷室と雪冷房の二つに整理してまとめるようにする。理解の助けになる図や表があるので、合わせて読み取るようにする。 ○p. 50～51で、筆者がどんなことを問題だととらえているかをふまえて説明するようにする。 ○変化の可能性については、（2）で考えたことその他に、除雪にかかる労力や除雪で集めた雪の位置づけが変わることも考えるようにする。p. 56㉔～㉔段落をもとに考えるようにする。	◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）		
				5	深めよう 3. （1）筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際に取り上げている事例の順序を検討し、そのようにする筆者の意図について話し合う。 （2）筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際、克服しなければならない課題にも触れていることの効果を考え、話し合う。	○まず、筆者が取り上げている事例、氷室と雪冷房を比べて気づいたことを話し合うようにする。氷室は先人の知恵を現代に生かしていた事例であり、雪冷房は現代の冷房施設に雪エネルギーを導入したものであることをおさえておく。 ○氷室を先に取り上げて詳しく述べたこと、雪冷房については、その規模を比較することを手がかりに考えるようにする。 ○雪エネルギーの利点だけ述べた場合と様々な課題を視野に入れて述べた場合とを比べて考えるようにする。「ここが大事」と合わせて扱う。 ○筆者が、p. 58㉔段落で「雪エネルギーの今後の課題」に触れた後、㉔段落で「日本の国土の半分以上は雪国」と指摘して、文章を締めくくっていることの効果も考えさせるとよい。	◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）		
					広げよう 4. （1）「雪は新しいエネルギー」を読んで、筆者の考えや説明の仕方について、考えたことを文章にまとめる。 （2）書いた文章を友達と読み合い、感想を話し合う。	○文章にまとめる活動に入る前に、この文章を読んだ感想を話し合い、それぞれがどんな観点から感想を持っているか、整理しておくとうい。 ○友達の書いた文章に話し合う際にも、どんな観点からどのように考えたか注意して読み、自分の考えと比べるようにする。			
					○学習を振り返る。				

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	2	主語と述語の対応をみる	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒ ◎知技(1)カ	1	○冒頭の会話文を通して、文を見直す際に主語と述語の対応を確認することが大事だということを知る。 1. 教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。	○主語と述語が対応していない文は言いたいことが正しく伝わらない文になることに気付かせる。 ○教科書の例文を児童に提示してどのように直せばいいか考えさせたうえで教科書の説明を読むようにする。 ○ねじれ文の直し方は1つに限られるものではないことに気付かせる。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 （【知識及び技能】(1)カ） 【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。		主語／述語／文／伝える／漢字／文章
				2	2. ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 3. 文章を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているか振り返る。 ○学習したことを振り返る。	○ノートに直した文を書かせ、主語（のまとまり）と述語（のまとまり）に線を引かせて、主語と述語の対応を確認させる。 ○日頃の言語生活を振り返り、学習の成果を生かしていくことができるよう意識づける。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	10 （話す聞 く6、書 く4）	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇■立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。						
6	6 （話す聞 く6）	地域の防災について話し合おう	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 →知技(1)キ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 →思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 →◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 →思判表A(2)ウ ☆特別活動・総合的な学習の時間など：問題意識や互いの立場・主張を明確にしながら、計画的に話し合う。	1 2 <					

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	4 (書く4)	パンフレットで知らせよう	<p>■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間など：事物を紹介する活動でも活用できる。</p>	1	<p>○教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。</p> <p>決めよう・集めよう 1. 違う立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。</p>	<p>○パンフレットを集めさせ、読み比べて、パンフレットという表現方法の特徴を理解させる。 ○読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなど、具体的に考えさせる。</p> <p>○前時までのパネルディスカッションをふまえ、その中で感じた個々の課題を話し合う。パネルディスカッション時のグループとは別のグループメンバーと話し合うことで、さまざまな立場からの課題や意見を交流できる。 ○誰に何を伝えたいかを明確にすることで、パンフレットに載せる題材や分量も定まってくるだろう。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ）</p> <p>【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。</p>	パンフレットで知らせる	パンフレット／パネルディスカッション／課題／立場／情報／構成／アンケート／文章／見出し／文
6	1 (書く1)	雨	<p>△「雨」を扱った言語表現を集め、日本語の豊かさに気づく。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	1	<p>1. 教科書の文章から「雨」を取り上げた言語表現を知り、その背景を考える。</p> <p>2. 「雨」に関するさまざまな言語表現を、辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写を思い出して確かめたりしながらノートに書く。</p>	<p>○「雨」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。</p> <p>○どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ○これまで読んだ本で記憶に残っている雨の描写をいろいろな人と交流して集め確かめ合うようにさせる。雨を題材とした歌などの楽曲なども対象にしてよい。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>		言葉ノート／言葉／漢字／短歌／俳句／詩／ことわざ

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	世代による言葉のちがい	<p>△世代による言葉遣いのちがいについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	1	<p>○世代によって使用する言葉に違いがあることもあるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。</p> <p>1. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあるということについて理解する。</p> <p>2. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものもあるということを理解する。</p> <p>3. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものもあるということを知る。</p>	<p>○教材冒頭の会話文を読み、世代による言葉の違いについて調べてみたいという意欲を持たせる。 ○世代による言葉の違いは、あくまでも相対的なものであり、年長だからといってすべての人が「ジーパン」・「いささか」を用いるわけではなく、若い世代の人でもこれらの言葉になじんでいることがある。あまり杓子定規に扱わないよう配慮が必要。</p> <p>○p.78下段を読み、板書やワークシートを活用しながら教科書に挙げられたもの以外にも今はほとんど使われなくなった言葉があることに気付かせる。</p> <p>○p.79上段を読み、ここに挙がっている「なにげに」「ビミョー」「ぼほぼほ」という言葉を使ったことがあるかどうか内省させ、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。</p> <p>○p.79下段を読み、幼児がよく使っている言葉にはどのようなものがあるか探させる。 ○世代による言葉の違いについて、家の人たちにインタビューしてくるよう指示を出す。</p> <p>○調べてきた内容をグループごとにそれぞれまとめ、気づいたことについて話し合わせる。</p> <p>○それぞれの世代によって使う言葉が変化することや、ものを表すのにいろいろな言葉があることのおもしろさについて感じさせる。 ○今の言葉も、使う人や文体などによって、古い言い方や新しい言い方が交ざっていることに気づかせる。</p> <p>○p.79のまとめを読み、世代によって使われる言葉の違いや、ふだん友達どうして使うようなくだけた表現の言葉など、相手や場面によって使われる言葉に違いがあることを知り、自分が使う場面で、より適切な言葉を選ぶようにすることが大切であることを理解させる。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ）</p> <p>【態度】積極的に世代による言葉遣いの違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。</p>		世代による言葉の違い／様子／場面
7	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	<p>△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「象」という漢字の意味を考える。</p> <p>2. p.80下段を読み、「象」という漢字には、もとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。</p> <p>3. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。</p> <p>4. p.81下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。</p>	<p>○複数の意味をもつ漢字について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○一つの漢字には、もともとの意味のほかに、あとから意味が加わったり、変化したりするものがあることを「象」を例に知る。</p> <p>○具体的なものごとを表す具象語だけでなく、同じ漢字から抽象的な概念を表す抽象語も構成されていることに気づくことができるようにする。</p> <p>○「布」「針」を使った言葉を使い短文作りに取り組み、それぞれの言葉と漢字の意味を想起できるようにする。 ○辞書でそれぞれの言葉と漢字の意味を確認する。</p> <p>○声に出して文を読み、傍線の漢字のおおよその意味を推測し、それぞれの意味の違いを話し合うようにする。 ○漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。</p>		複数の意味をもつ漢字／象形文字／漢字／言葉／文章／物語

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	1 （書く1）	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことを振り返る。	○漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○p. 82の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる工場の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらしきかける。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらしきかける。 ○内容につながるりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 ○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらしきかける。 ○複数の意味をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。		漢字／言葉／様子／資料

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	7 （話す聞く2）	四	すぐれた表現の効果を 考えて、登場人物の心情を 読もう						
7		川とノリオ	△文の中での語句の係り方や語順、文と文との 接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章 の種類とその特徴について理解すること。 ⇒ 知技(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒ ◎知技(1)ケ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題 を決め、集めた材料を分類したり関係付けたり して、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判 表A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に 話し合い、考えを広げたりまとめたりするこ と。 ⇒思判表A(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描 写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像し たり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎ 思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分 の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)◎オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、 自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それ らを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明した り、自分の生き方などについて考えたことを伝 え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかけが えのないものであることを知り、自他の生命を 尊重しようとする。	1 					

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	2 (話す聞く2)	教えて！あなたの「とっておき」	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 →◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ	1	1. 知らせたい「とっておき」を考える。 (1) 教科書の例を参考にしながら、友達と共通点がありそうな質問の項目を学級で話し合う。 (2) 項目から三つ選び、エピソードを思い出す。	○話をする際に、聞き手が連想しやすいエピソードや情報を盛り込むようにする。この項目を選んだ理由やその時の思いを紹介することで、具体的なエピソードにつなげるようにしたい。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)		聞き手／話し手／比べる／伝える／漢字／共通点／相違点
				2	話そう・聞こう（重点） 2. 「とっておき」について話す。 (3) 二人で組になり、エピソードをあげながら順番に話をする。 3. 感想を伝え合う。 (4) 友達のエピソードと自分の考えを紹介する。 (5) 紹介を聞き終えたら、感想を伝える。	○聞き手は、話の内容に合わせて相槌を打ち、聞き取れないときや内容がわからなかったときは尋ねることを意識させる。	【態度】積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	1	詩を味わおう イナゴ	<p>□凝縮された言葉の美しさや豊かさを味わいながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	1	<p>1. 一連と二連の「イナゴ」と「ぼく」の様子をもとに、詩の世界をイメージする。</p> <p>2. 三連について考えたことを話し合う。</p>	<p>○一連、色彩豊かな秋のひとつである。</p> <p>○二連、一転して、緊張しているイナゴのクローズアップである。</p> <p>○一連と二連で、僕の目に映るイナゴの姿にはどのような違いがあるか考える。</p> <p>○三連、強い生きもの（ぼく＝人間）と、よわい生きもの（イナゴ＝昆虫）の間の「イネのにおい」である。</p> <p>○「川のように流れるイネのにおい！」から、どのようなことを想像したか考える。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）</p> <p>【態度】積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。</p>		連／様子
9	1 (書く 1)	「知恵の言葉」を集めよう	<p>△昔から広く継承されてきた「知恵の言葉」を知ることによって、言語文化の奥深さに気がつくとともに、自らの体験をもとに新たな「知恵の言葉」を創作する。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	1	<p>1 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱え言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲をもつ。</p> <p>2 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。</p> <p>3 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。</p>	<p>○教師の知っている唱え言葉による暗記などの工夫を紹介し、家で教わったり自分で工夫したりした工夫を思い出したりさせる。</p> <p>○教材文での「知恵の言葉」のいろいろを唱えさせ、いろいろな「知恵」があることに気づかせるようにする。</p> <p>○「知恵の言葉」の唱えやすさが言葉のリズム等にあることに気づかせる。</p> <p>○本、インターネット、家の人の口癖など、いろいろな方面から集めるよう助言する。</p> <p>○交通標語なども「知恵の言葉」に入ることに気づかせ、自分の心覚えや下学年へのアドバイスなど唱えやすい言葉で作るようにさせる。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくらうとしている。</p>		教訓／ことわざ／言葉／日本語／漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	5 (書く 5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。						
		物語を作ろう	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →◎知技(1)カ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	1 					

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	1	○学習したことを振り返る。 ○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 2. 「経験」と「体験」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 3. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。	○熟語の使い分けについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「大事」と「重要」の二語の使い方の違いを実際に考え、熟語の使い分けに感心もてるようにすることをねらいとしている。 ○意味のよく似た熟語の使い分けについては、用例をとおして直感的に判断したり、感覚的に捉えられるようにすることを第一とする。 ○児童自身の体験や読書経験を生かし、できるだけたくさん用例を集め、使い分けを考えられるようにする。 ○辞典を利用し、比較する二語の意味の共通点と相違点を調べ、用例が重なる場合と、使い分けされる場合があることを理解できるようにする。 ○「事実」「現実」などのように、やや抽象的な概念を表す熟語については、それが表す具体的な中身を考えられるようにする。 ○作った短文を発表し合い、その熟語が短文の使用例として適切かどうか、みんなで確かめてもよい。 〔例〕「延期・延長」、「感動・感激」、「周囲・周辺」	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。		熟語／文／様子／漢字／事実
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	4. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 5. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 6. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○p.124の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することががら児童たち全体に示しやすくなる。 ○絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかけ。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 ○条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ○表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 ○互いの文のよいところを見付けて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○熟語の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。		漢字／言葉／様子